

関係機関・団体調査結果【概要】

1 趣旨

次期計画を策定するにあたり、子育て支援に関わる団体・個人等に対して、子育て支援の現状や課題等を把握し、施策の方向性等を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査対象 市内で活動している子育て支援に関わる団体（18 団体）、個人（26 人）

分類	団体名等
子育て支援団体	地域の子育てサロン
地域の子どもの居場所づくり	放課後子ども教室、不登校支援等の団体
地域子育て支援拠点施設	地域子育て支援センター ウッディ子育て交流ひろば 駅前子育て交流ひろば
療育施設	子ども発達支援センター、児童発達支援施設等 放課後デーサービス
個人の支援者等	ファミリーサポートセンター（協力会員） ファミリーサポートセンター（両方会員） さんだっ子幸せ・夢サポーター こんにちは赤ちゃん訪問スタッフ
学校関係（個人）	スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー

3 調査方法・調査期間

- ・メール、郵送等（一部ヒアリング形式）による配布・回収。※団体名等記名式
- ・令和6年2月19日～3月8日

4 調査内容

- ①三田市の子育て・子どもが育つ環境に関する現状や課題、特に支援を必要とすること
- ②子ども・子育て支援に関する施策について、三田市が特に重点的に取り組むべきことや課題
- ③今後力を入れたい活動や、行政と連携して取り組みたいこと
- ④子どもの育ちや健やかな成長について

（主な意見の一部抜粋）

身近な相談、居場所づくりについて	<p>●ママ友にも相談しない、頼れない親が増えていると感じる。相談先や頼れる先は複数あるべきで、行政や地域がセーフティーネットとなるべきである。悩みを少し吐き出す場所があるだけで心休まり、前に進めることもある。</p> <p>●各校区や年齢に関わらず集まることができ、話を聞いてくれる大人や寄り添ってくれる高齢者、一緒に遊んでくれるお兄さんお姉さんがいて、時間に関係なく行ける場所などがあれば良いと思う。子どもの</p>
------------------	--

	居場所づくりは、あらゆる人々の居場所づくりにつながると考える。
子育て家庭の孤立について	●ひとり親家庭など、日常生活に追われ、社会とのつながりが希薄な子育て家庭を、地域社会から孤立させないことが重要。「助けて」と言いやすい、安心できる居場所づくりや、相談支援体制の構築が必要。
子育て支援の情報発信について	●サービスを活用してもらうための情報発信の方法を工夫してほしい。市のホームページ等を見やすく・使いやすくしたり、SNSを活用したりすべきである。
子どもの体験活動について	●子どもの育ちには、より多くの人との関わりや、様々なチャレンジができる環境が大切。子どもの不安や悩みは多様化する一方、コロナ禍の影響も大きく、体験の不足によるソーシャルスキルの未熟さが多く見受けられる。これまで以上に、様々な体験の場や居場所づくりを継続的に実施することが望まれる。
保幼小中の連携について	●個別の関わりや配慮が必要な子ども達のために、保幼小中連携の一層の充実を目指し、現場スタッフの共通理解・認識を深めていく必要がある。 ●学校や就学前施設の教職員に相談できる機会が少ないと思われる。家庭と学校、地域が協力して、教育・保育に取り組む必要がある。
不登校について	●不登校について、多様性の観点から様々なアプローチや選択肢があることへの理解が進んできた。だからこそ、選択肢となる居場所を増やし、互いの理解が進むことが望ましい。 ●保護者支援に力を入れて欲しい。保護者が、学校復帰以外の選択肢や、昔とは違う価値観を持っている事について理解してほしい。
関係機関等の横の連携について	●子育て支援は、多様な専門性が必要になるため、横の連携が必須。各事業所、各学校、地域で困っている家庭は多く、内部では把握出来ていても、その課題を吸い上げる仕組みがない。解決に向けて情報を吸い上げる仕組みが必要。 ●市内で、官民を問わず、子どもに関わる支援者が集い、子ども支援の課題や取り組みについて情報交換や議論できる場があれば良いと思う。
子どもの権利擁護について	●子どもの権利擁護は、あらゆる機会を通じて広報啓発活動が必要。
地域づくりについて	●子どもは、環境に影響されながら育つ。昔と違い、家族以外との関わりが疎遠になってきている中、子どもが会う大人たちからたくさん愛情を注いでもらえるような地域社会であってほしい。 ●地域計画を進めていく立場の地域も、子どもにとってより身近な場所で、自分たちが「楽しい」「やりたい」と思えるまちづくりについて議論し、形にできれば、より素敵なまち・地域になると思う。

こどもまんなかワークショップ実施結果【概要】

1 趣旨

次期計画策定にあたり、令和5年度に実施したニーズ等調査の結果を補完するものとして、様々な世代・立場の方から意見を聴き、施策の方向性等を検討するための基礎資料とすることを目的に開催しました。

2 開催日・場所等 令和6年5月19日（日）/三田市役所2号庁舎 2201会議室

①子どもの部 9:30-12:30

・参加者：市内在住・在学の中学生・高校生 11名（中学生：7名、高校生：4名）

②大人の部 13:30-16:30

・参加者：市内在住・在学・在勤で、子どもや子育てに関心がある18歳以上の方 10名（10代：1名、20代：3名、30代：3名、40代：1名、50代：2名）

3 子どもの部

(1) ワークのねらい

- ・子ども自身が意見表明について学ぶトライアルの機会とするとともに、意見を聴く方法についてのアイデアを得る機会とする。
- ・自身の日常生活を起点に、課題及びまちの未来を考えることで、子どもならではの視点で貢献できるという成功体験を獲得する。

(2) 主なワーク

【ワーク①】

大人への「なんでやねん」：普段の生活の中で「大人に言われて嫌だったこと／大人に対する不満」を付箋に書いて模造紙に貼る

【ワーク②】

理想を描く：ワーク①で挙げた不満等に対して「本当はこうあってほしい／こうなったらいいのに」という願いを付箋に書いて模造紙に貼る



(3) 参加者の声（一部抜粋）

- 大人からよく「自分の意見を出して」と言われるが、単純に意見がない人と、意見を出したくても周りから指摘や反対される恐怖心により言えない人がある。「間違っても大丈夫」という安心して話せる雰囲気づくりや、周りの温かい反応が大事。
- 子どもに言いきかせていることを、大人が守れていないことが多い。まずは大人が行動に責任感を持って、ルールを守ってほしい。
- 理不尽に怒られていると感じることが多い。怒る・叱るときは、理由も伝えてほしい。
- 固定概念を押し付けず、違いや個性を認めてほしい。
- 大人から、時々によって「もう大人でしょ」「まだ子どもだろ」と言われる。

4 大人の部

(1) ワークのねらい

- ・自身の子育て経験または三田での生活をもとに、「子育て」をテーマとして他者と対話することで、子育てについて考える仲間存在に気づくとともに、子育てにあたたかいまちづくりの一員であるという当事者意識を醸成する。

(2) 主なワーク

【ワーク①】

子育てLife Curve:「子育て」をテーマに、人生の幸福度の上下で起こる出来事を付箋に書いて模造紙に並べる

【ワーク②】

子育て支援の機能:子育てにおける悩み・辛さを解消するために、どのような人に、どのような形で関わってもらえるとよいかを模造紙上で整理

まとめ:「こどもを核とするまちづくり」のために「わたしにできること」を考える



(3) 参加者の声（一部抜粋）

- 子育ては辛いこともたくさんあるが、子どもの成長や小さな変化に触れると、それまでの辛さを超えるほどの幸福を感じる。
- 子育て全般の情報を知る手段として、子育ての先輩やその子どものインタビューがまとめられたものを作成・配布することで、必要な情報伝達と、子育ての不安軽減につながるのでは。
- 出産後の仕事復帰や、子どもの小学校入学等のタイミングで、それまでの保護者同士のつながりが切れてしまうことがある。地域でのイベントやお祭りが、つながりの希薄化に対する解決策になるのではないか。
- 「土日に預かってもらえる場所」や「不登校」等、具体的な解決策を求める悩みの相談は、日常的に接点のある人よりも、専門性を持つ人に相談したい。一方、「親自身が自分の時間を作りづらい」といった、モヤモヤした気持ちや悩み等は、普段から関係性のある身近な人に聞いてもらいたい。
- 親も子もシニアもつながることができる、地域住民がつくる「地域の居場所」があれば良いと思う。

オンライン意見箱回答結果【概要】

1 趣旨

次期計画の策定にあたり、令和5年度に実施したニーズ等調査の結果を補完するものとして、様々な世代・立場の方から意見を聴き、施策の方向性等を検討するための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 募集期間 令和6年5月1日～5月25日

3 回答人数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	不明	合計
年齢別	3	1	9	22	9	4	1	2	51

4 回答内容

①三田の子どもや若者のために、
「今の私ならこんなことができそう!」「将来、私はこんなことをやってみたい!」と思うこと

	件数
地域・社会活動への参加	30
子どもの手本となるような言動	18
配慮を必要とする子どもへの支援	3
世代間交流	1
将来の夢（小児科医になること）の実現	1
性教育の講座	1
有機・無農薬野菜農家からの野菜購入	1
延べ件数	55

■主な意見箱の声（一部抜粋）

- ・クリーンデーに毎回参加する。
- ・散歩しながら、まちの子どもを見守り、挨拶する。
- ・子どもを元気にするには、まずは大人が元気になる必要があると思う。
- ・毎日、楽しく前向きに生活している姿・笑顔で前向きに働く姿を見せる。
- ・大人が子どもに対して恥ずかしくない行動・発言を心掛けたい。

②三田の子どもや若者のために、三田市が力を入れたらよいと思うこと

	件数
子育て環境の改善	17
経済的負担の軽減	16
学校教育・通学環境の充実	14
子育て支援・施策の充実	13
子どもの遊び場の充実	8
公共施設の充実	6
世代間交流	3
フリースクールへの支援	3
市ホームページの充実	1
延べ件数	81

■主な意見箱の声（一部抜粋）

- ・子どもの可能性を引き出す学びの場をどんどん作ってほしい。
- ・相談体制などは、今の子育て世帯に合ったサポートをお願いしたい。
- ・子ども・若者・大人・高齢者などが、いろいろな形で交流できる場づくりが必要だと思う。
- ・次世代の三田の子どもたちの幸せのために、大人である私達に何ができるか、今の大人のためだけでなく子どもの利益を第一とする視点を忘れず、まちづくりに取り組んでほしい。

③三田の子どもや若者が、三田市へ意見を伝えやすくするために、あればよいと思う方法や場

	件数
◆対面形式での意見聴取	32
会議・意見交換会	12
学校での意見聴取	11
若者が行政に助言できる場	3
先生たちの意見を聴く場	2
幅広く意見を聴く場	2
具体的な目的に向かい、行政と共に活動する場	1
ワークショップ	1
◆媒体等を介した間接的な意見聴取	22
アンケート（SNS等の活用を含む）	14
意見箱・目安箱	3
授業で市長への手紙を書く	2
回答者には景品等が当たる意見募集	2
無記名で送ることができるメール等	1
◆意見表明しやすい場の提供やきっかけづくり	9
子どもを子ども扱いしないで意見を聴く	2
外部講師を招く	1
子どもたちの意見が採用された事例を示す	1
対話を大切にする姿勢を示す	1
子どもが運営する「子ども若者クラブ」をつくる	1
地域のコミュニティハウス	1
子どもの意見を代弁する人材の設置	1
子どもの意見を聴く必要性についての研修・啓発活動	1
延べ件数	63

■主な意見箱の声（一部抜粋）

- ・学校に出向いて気軽に意見を出しやすい雰囲気を作り、話を聞く。
- ・学校でタブレットを使って意見を出す。
- ・中学生や高校生の生徒会長などに、若者会議に参加してもらおう。
- ・子ども・若者が参加する会議で、大人が対話を大切にする姿勢を示す。
- ・大人が、子ども・若者が意見を言うことに「慣れる」ようにすること。
- ・意見を求めたいテーマについて、SNSを通じたアンケートなどを実施する。
- ・子どもの意見であるからといって何でも採用する必要はなく、子ども扱いしないで、大人と同じように三田のまちづくりのパートナーの意見として尊重して扱うべき。